



医学部附属病院 × 歯学部附属病院

「東京医科歯科大学病院」 START



オーラルヘルスセンターの設立

口は栄養の入口であり、ともすると感染の入口にもなり得ます。いつまでもおいしく食事を食べられる口の健康を維持することが体の健康の源となります。入院中は、全身疾患や入院生活の影響で口の機能や衛生環境が悪化しやすくなります。そこで、入院中の口腔問題の早期発見・早期介入に務め、口腔由来の合併症を予防することで在院日数の短縮を実現し、地域の歯科医療へつなげることを目的に、「オーラルヘルスケアセンター」を設立しました。

今まで個別に診療科間で行っていた入院患者の口腔管理に関する依頼窓口を一本化することで、医系診療部門と歯系診療部門の連携を強化し、患者さんに、より質の高い医療を提供します。



入院患者の栄養管理サポート

東京医科歯科大学病院には、栄養サポートの認定資格を持った管理栄養士・医師・看護師・薬剤師と、外科・内科・リハビリ科の医師、リハビリスタッフ、臨床検査技師、歯科医師による栄養サポートチーム（NST）があります。

入院患者の栄養管理をサポートするために発足したNSTは、多職種で毎週カンファレンスと回診を行い、それぞれの職種の専門的な視点から患者さんに合わせた最適な栄養管理プランを検討し、提案しています。

以前は医系診療部門の入院患者を対象に行っていましたが、病院一体化により歯系診療部門の入院患者も対象となり、また、入院患者の栄養に関する相談窓口として歯系診療部門のリンクナースやリンクドクターが加わったため、栄養管理の相談がさらに円滑化しました。



歯系診療部門の

入院オリエンテーション導入

2019年より旧医学部附属病院で行っていた入院オリエンテーションを、2022年3月より歯系診療部門にも導入することとなりました。

入院オリエンテーションでは、入院前に基礎情報を収集した上で、看護師・薬剤師・栄養士等多職種でスクリーニングを行い各部門と連携することで、安全に入院治療が受けられるようサポートしています。また、入院前から地域と情報を共有するなど、より早期から療養環境調整に着手します。先行して2021年10月から歯系病棟での退院支援が一体化されており、今回入院前支援が加わることでシームレスな体制が整いました。引き続き、病院内全体で、より質の高い入院支援が提供できるよう尽力していきます。



東京医科歯科大学病院 一体化記念式典



新病院としてスタートを切り
医科・歯科の連携強化を目指す

2021年10月12日、湯島キャンパスの鈴木章夫記念講堂にて、同月1日にスタートを切った東京医科歯科大学病院の一体化記念式典が行われました。医学部附属病院と歯学部附属病院の一体化は、3年前から両病院が討議検討を重ね、電子カルテシステムの共通化や救急医療提供の体制構築、感染症対策などさまざまな課題を解決することによって実現したものです。

当日は、田中校長と大川医療担当理事、内田病院長、水口主席副病院長、北川医学部長、依田歯学部長のほか、来賓として同窓会の大野理事長、浅野会長、佐々木会長、関会長、十川会長、高柳会長が列席。式典では学長、医療担当理事、病院長の挨拶に続き、学長をはじめとする壇上の12名が1列に並び、司会者の声かけに合わせて除幕し、「東京医科歯科大学病院」の文字を彫り込んだ銘板をお披露目しました。

生まれ変わった本院は、先進的かつ安全な医療の提供に向けて、医科と歯科の連携をさらに強化していきます。